

学校教育目標	自分に自信をもち、人と学び合い、主体的に生きる「しきどっ子」の育成
育成を目指す資質・能力	心豊かな子 かしこい子 たくましい子

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> ○単元末テストの結果から ・基礎・基本が十分でない児童が数人おり、個人差がある。(単元末テスト達成率40%以下の児童の割合…国語1.9%算数1.3%) ・単元末テスト達成率80%以上の児童の割合が90%に満たないクラスがほとんどである。基礎・基本ができていても、問題文を正確に読み取れないため、応用的なものが苦手という傾向にある。	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> ○児童アンケートから ・「授業の最初と最後のあいさつはきちんとできている」と回答した児童の割合は93%で、授業に向かう姿勢は整いつつある。 ・「授業中に自分の考えや意見を進んで発表できる」と回答した児童の割合は78%で少数であるが自分の考えを表現できていない子がいる。発表だけでなく、書くことも含めた表現力も必要。
	<b>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</b> ○個人差が大きく、自分の考えをもったり、友だちの考えと比べたりすることが苦手。 ○語彙力が少なく、文章を読んでその場面をイメージする力が付いていない。 ○何を問われているのか正しくつかめていない。 ○自分の言葉で説明したり、書いたりすることに苦手意識がある。	
指導の状況	<b>1 組織的な授業改善の取組状況</b> ・「めあて・振り返り」「課題・まとめ」のある授業に取り組むことで学年に応じた形式ができつつある。 ・ペア活動が定着してきており、自分の考えをもち、それを表現できる場が広がった。 ・発達段階に合った「話し方・聞き方1・2・3」の指導を行っているが、なかなか定着できていない。 ・思考の流れが分かる整理された板書や、考えの比較・変容が分かるノート指導の工夫により、自分の考えをもち、友だちと比べたり、深めたりできることを目指している。	
	<b>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</b> ・読書量の目標は概ね達成できているが、発達の段階に応じた本や物語を読まない子がいる。いろいろな分類の本を読む機会を作るために1日2冊ずつ借りられるようにした。(1冊は9分類、もう1冊は好きな本など) ・「努力を要する状況」の児童に対する、「敷戸タイム」を中心とした個別指導の工夫により、基本的な学習の定着ができてきた。	

学力に関する達成指標

- 自ら進んで考え、周りの人とともに学び合うかしこい子
- ①単元末テストにおいて、平均が80点以上の児童の割合を90%以上にする。
  - ②学校図書館における児童一人当たりの年間平均貸出冊数80冊を達成する。

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	<b>〈授業改善のテーマ・重点〉</b> 「分かる喜び」「できる喜び」を感得できる「楽しい授業」の工夫・実践 ・「めあて・振り返り」「課題・まとめ」のある問題解決的な授業の実践 ・「考える力」を付ける授業の工夫(ICT端末の効果的活用) ・「学習規律」の徹底	
	<b>〈取組内容〉</b> ・授業力向上(個人差をうめる取組) ・学習指導の充実(定着を目指した取組)	<b>〈家庭・地域の取組内容〉</b> ・家庭学習の充実と家庭との連携(習慣化を目指した取組)
	<b>〈取組指標〉</b> 「めあて(見通し)・振り返り」「課題・まとめ」のある1時間完結型の授業の実施率を80%以上にする。	<b>〈家庭・地域の取組指標〉</b> ・家庭学習習慣(学年×10分+20分)の実施率を90%以上にする。
	<b>〈検証指標〉</b> ・「めあて・振り返り」「課題・まとめ」のある授業に取り組む…80%以上 ・習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実(子どもの実態把握、教材教具の工夫)…80%以上 ・振り返り問題を活用した授業の徹底…70%以上 ・発達の段階に合った話し方・聞き方の指導の徹底 90%以上	<b>〈家庭・地域の検証指標〉</b> ・家庭学習の協力のお願ひなど、家庭との連携をとる。(学習の鉄人、しきどっ子ぐんぐん)
	<b>【授業改善以外の学力向上の取組】</b> ・読書活動を通して、豊かな心の育成と読解力の向上をはかる。 ・学力的に困りを感じている児童に対し、「敷戸タイム」(朝の活動)を中心に個別指導の工夫をする。	